



2015年3月期 決算短信補足資料

2015年5月15日
日本水産株式会社

◆水産・食品事業は増収・増益、ファイン事業は減収・減益

(単位:億円)	2015年3月期 実績	2014年3月期 実績	対前年比 増減額/率(%)	
売上高	6,384	6,042	341	105.7%
水産事業	2,848	2,538	309	112.2%
食品事業	2,969	2,826	142	105.0%
ファイン事業	253	285	▲ 32	88.6%
物流事業	142	138	3	102.5%
その他	170	252	▲ 81	67.6%
営業利益	181	139	41	130.0%
水産事業	62	50	12	125.3%
食品事業	75	27	48	275.0%
ファイン事業	45	75	▲ 30	60.3%
物流事業	16	15	1	107.4%
その他	8	12	▲ 3	70.0%
全社経費	▲ 28	▲ 41	13	68.3%
経常利益	213	123	90	173.1%
当期純利益	102	37	65	273.7%
EPS(1株当たり純利益)	37.20円	13.59円	23.61円	—

2015年3月期 公表値	公表値に対する 進捗率(%)
6,100	104.7%
2,663	107.0%
2,853	104.1%
262	96.7%
144	98.7%
178	95.8%
175	103.5%
74	85.1%
64	118.7%
43	106.0%
17	98.3%
7	121.7%
▲ 30	95.3%
200	107.0%
105	97.9%
—	—

※2015年3月期公表値は、第2四半期決算発表時に修正した公表値(次頁以下同様)

◆前年比で増収・増益

海外が順調に推移するなか、国内は円安や後発医薬品の影響もあり厳しい事業環境。

【水産事業】 増収・増益

国内：販売価格は総じて堅調さを維持したものの、下期から円安による仕入コスト増もあり、粗利が取りにくくなった。在庫の回転を上げることで、利益を確保。

海外：北米の助子増産に加え、南米の鮭鱒養殖事業での販売価格上昇により収支大幅改善。東南アジア販社で回収懸念債権への引当てを実施。

【食品事業】 増収・増益

国内：円安による原材料や加工製品などの輸入コストの上昇に加え、競争激化のなか販促費も増加するが、ねり製品・魚肉ソーセージなどが好調。チルド事業も堅調。

海外：不採算事業縮小による収支好転に加え、北米、欧州とも好調に推移。

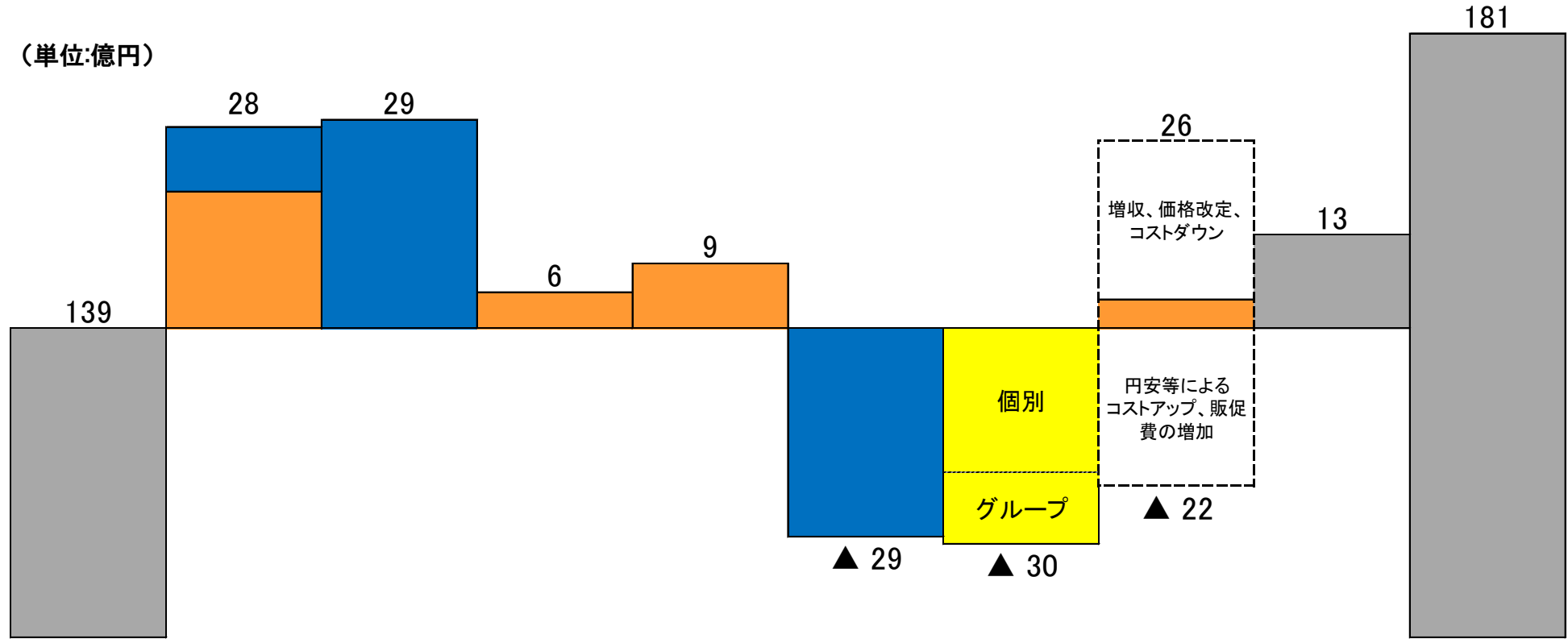
【ファイン事業】 減収・減益

個別、グループとも苦戦。ニッスイ個別は、薬価改定および後発医薬品使用促進策の影響により、粗利／売上数量が減少。成長を狙う機能性食品分野は販売数量が期待に反し伸び悩む。グループは、臨床診断薬・医薬品などで消費税率引き上げ前の、駆け込み需要の反動の影響あり。

主な営業利益増減要因

■ 水産 ■ 食品 ■ ファイン

(単位:億円)



(主な増減要因)

2014年3月期 営業利益	海外					国内		<全社経費> 退職給付費用 の減少	2015年3月期 営業利益
	<北米> 冷凍食品事業、すけそ うだら事業の収支改善等	<南米> 鮭鱒の販売価格上昇等	<欧州> 冷凍食品・チルド食品加工 販売会社の伸長	<欧州> 不採算事業縮小の効果	<アジア> 回収懸念債権への引当て等	<ファイン> 薬価改定、後発品使用促進 策の影響等	<個別/食品> 円安等によるコストアップ への対応		

セグメントマトリックス 売上高(前年比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	2,140 (146)	506 (104)	328 (83)	160 (2)	548 (41)	3,684 (378)	▲835 (▲68)	2,848 (309)
	1,993	401	244	158	507	3,305	▲766	2,538
食品事業	3,086 (97)	644 (83)		70 (▲13)	207 (▲22)	4,008 (144)	▲1,038 (▲2)	2,969 (142)
	2,989	560		84	229	3,863	▲1,036	2,826
ファイン事業	271 (▲32)			3 (0)		274 (▲31)	▲20 (▲0)	253 (▲32)
	303			2		305	▲19	285
物流事業	234 (11)					234 (11)	▲92 (▲8)	142 (3)
	223					223	▲84	138
その他事業	223 (▲73)			1 (0)		225 (▲73)	▲54 (▲8)	170 (▲81)
	297			1		298	▲46	252
仮計	5,955 (149)	1,150 (188)	328 (83)	236 (▲10)	755 (18)	8,426 (429)		
	5,806	962	244	246	737	7,997		
連結調整	▲1,477 (▲52)	▲217 (▲19)	▲217 (▲41)	▲118 (15)	▲9 (9)		▲2,042 (▲87)	
	▲1,425	▲198	▲176	▲134	▲19		▲1,954	
連結計	4,477 (97)	932 (168)	110 (41)	117 (5)	746 (28)			6,384 (341)
	4,380	763	68	111	718			6,042

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※連結除外会社及び新規連結会社の影響額 ▲64億円(Leuchtturm▲42、山東山孚▲26、弓ヶ浜水産+4 他)

※為替換算による売上高への影響額(試算) 215億円

セグメントマトリックス 営業利益(前年比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計
水産事業	36 (4)	7 (10)	41 (29)	▲27 (▲29)	11 (1)		69 (15)	▲6 (▲2)	62 (12)
	31	▲3	12	2	10		54	▲4	50
食品事業	34 (10)	22 (19)		1 (1)	17 (15)		76 (46)	▲0 (1)	75 (48)
	24	2		0	2		29	▲2	27
ファイン事業	44 (▲30)			0 (0)			45 (▲30)	0 (0)	45 (▲30)
	74			0			75	0	75
物流事業	16 (1)						16 (1)	0 (0)	16 (1)
	14						14	0	15
その他事業	10 (1)			0 (▲0)			10 (1)	▲1 (▲4)	8 (▲3)
	9			0			9	2	12
全社経費						▲29 (12)	▲29 (12)	1 (1)	▲28 (13)
						▲41	▲41	▲0	▲41
仮計	141 (▲13)	29 (30)	41 (29)	▲25 (▲28)	29 (16)	▲29 (12)	188 (46)		
	155	▲0	12	3	12	▲41	141		
連結調整	0 (▲5)	▲1 (▲1)	1 (0)	▲0 (▲0)	▲6 (1)	▲0 (1)		▲7 (▲4)	
	5	▲0	0	0	▲7	▲1		▲2	
連結計	142 (▲18)	27 (28)	43 (29)	▲25 (▲28)	23 (17)	▲30 (13)			181 (41)
	161	▲0	13	3	5	▲43			139

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

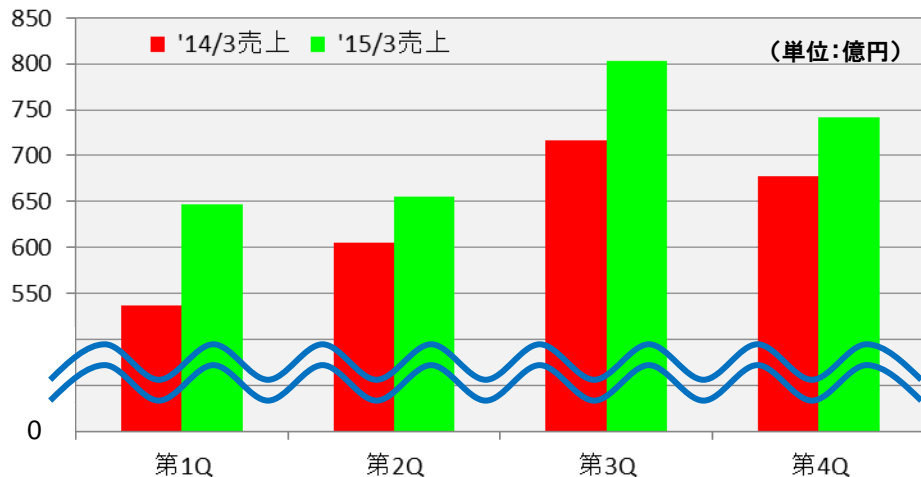
※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる。

※連結除外会社及び新規連結会社による営業利益への影響額 +9億円

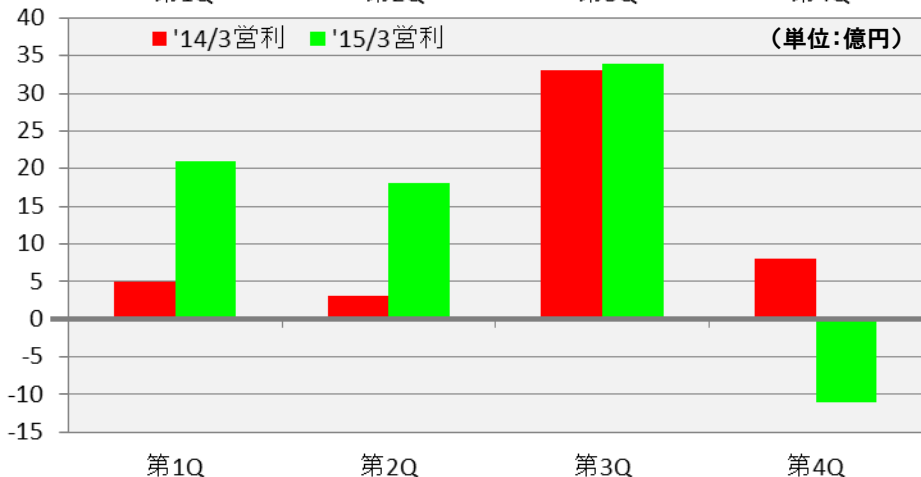
◆魚価は総じて高値を維持し、南米の鮭鱒養殖事業で販売価格上昇もあり、増収・増益

(単位: 億円)	2015年3月期 実績	2014年3月期 実績	対前年比 増減額/率		2015年3月期 公表値	公表値に 対する進捗率
売上高	2,848	2,538	309	112.2%	2,663	107.0%
営業利益	62	50	12	125.3%	74	85.1%
営業利益率	2.2%	2.0%	-	-	2.8%	-

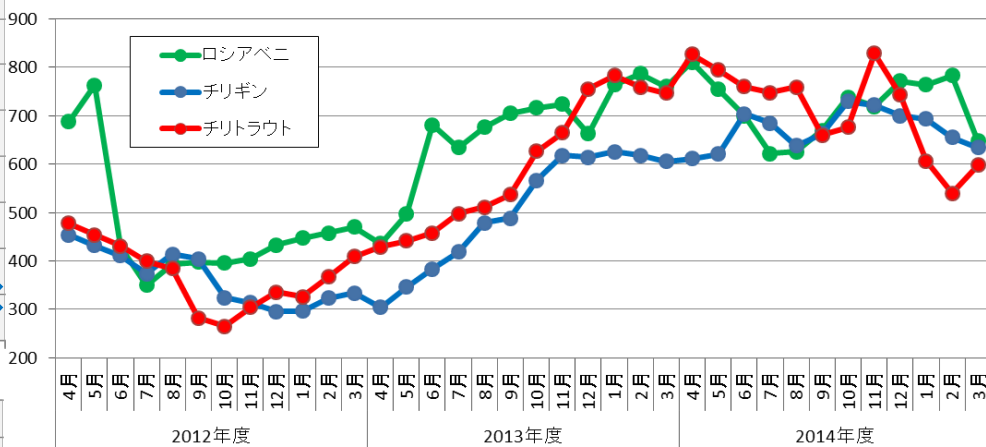
売上高



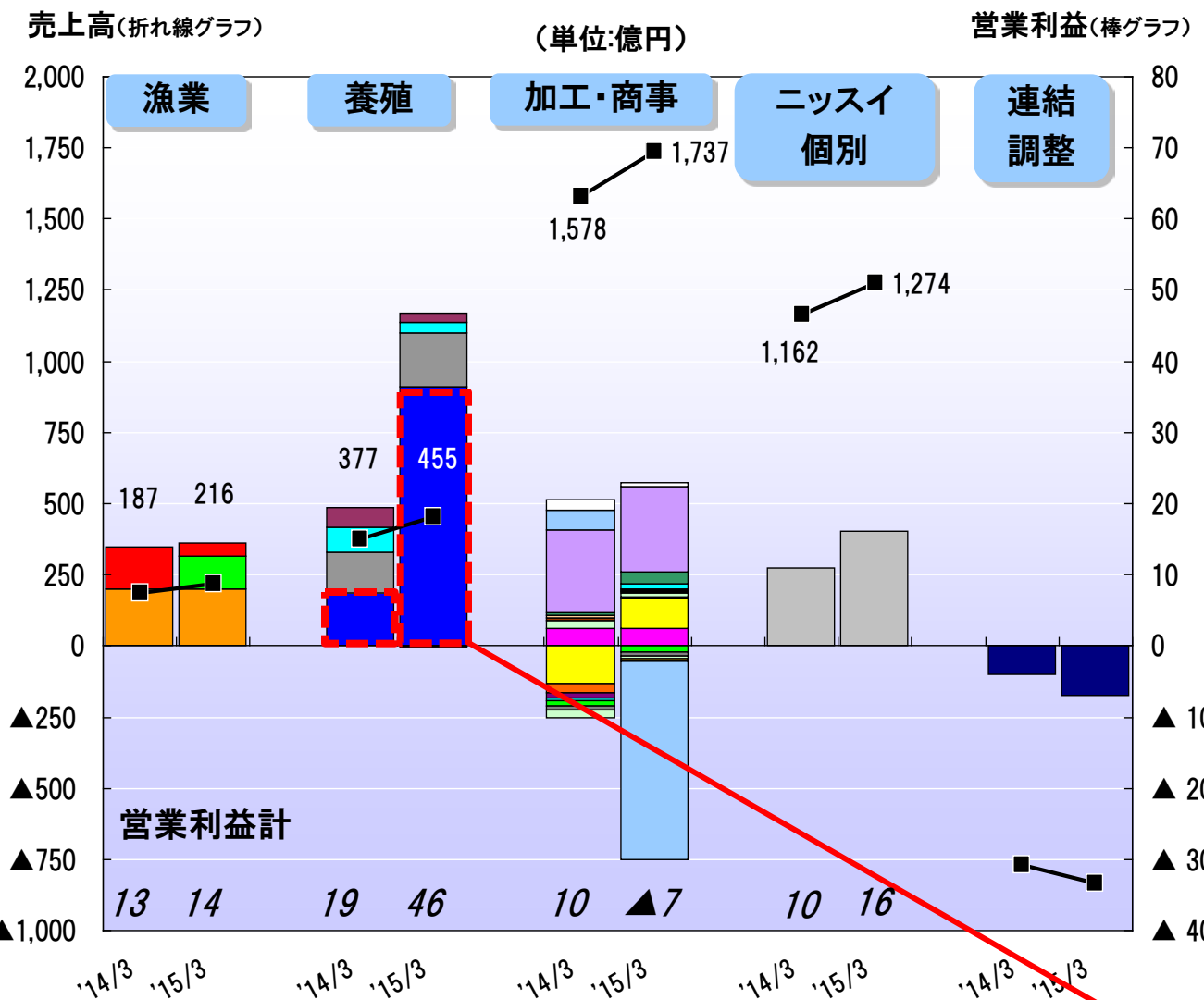
営業利益



＜水産物市況 鮭鱒 (財務省貿易統計より算出)＞



水産事業 売上高・営業利益(前年比)



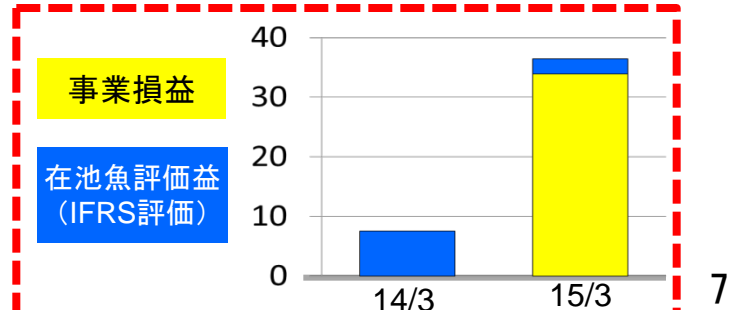
主な増減要因

【漁業】
 ・南米の漁撈事業
 南だらの漁獲は低調である一方、白身魚の販売価格が上昇

【養殖】
 ・国内養殖事業
 ぶり:「若ぶり」好調、年間通して販売価格が堅調
 まぐろ:販売価格低迷・販売数量は増加
 ・チリの鮭鱒養殖事業
 販売価格が高値で推移

【加工・商事】
 ・アメリカのすけそうだら事業
 すりみ:販売価格上昇、助手:生産量増加
 ・欧州:えび、白身魚など魚価が高値で推移
 ・アジア:東南アジア販社において、回収が懸念される売掛債権への貸倒引当金計上

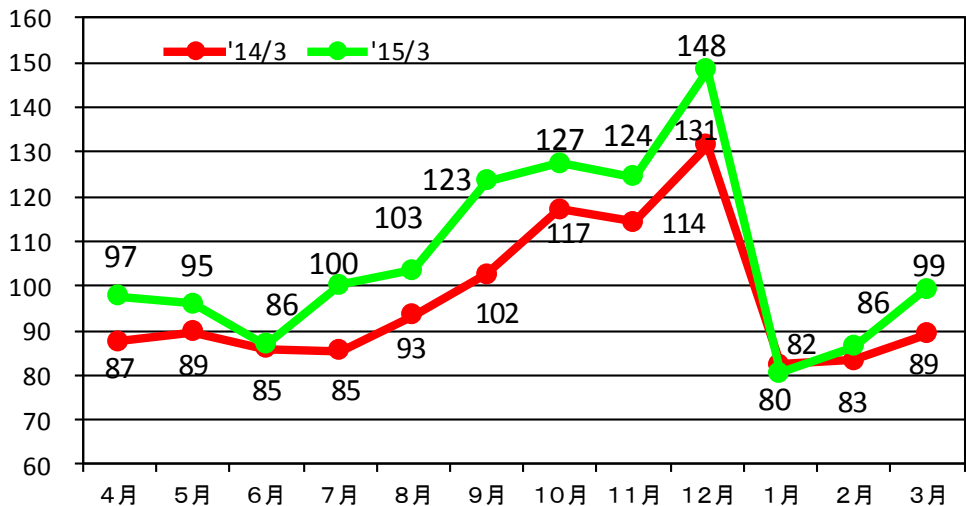
【ニッスイ個別】
 ・鮭鱒、えびなど水産物市況は、年間通して堅調に推移



※漁業、養殖、加工・商事のグラフは連結子会社の合計を記載
 ※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値
 ※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる

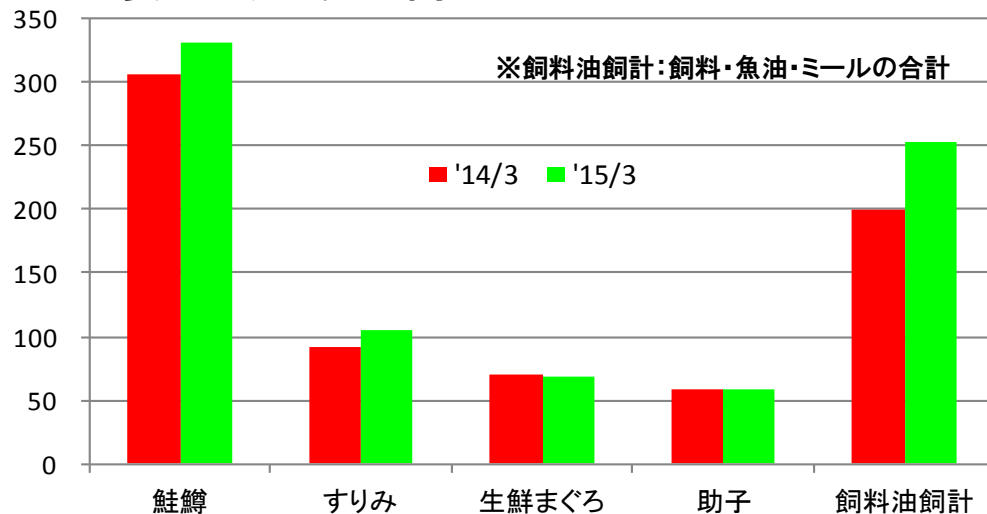
<売上高(月別)>

(単位:億円)



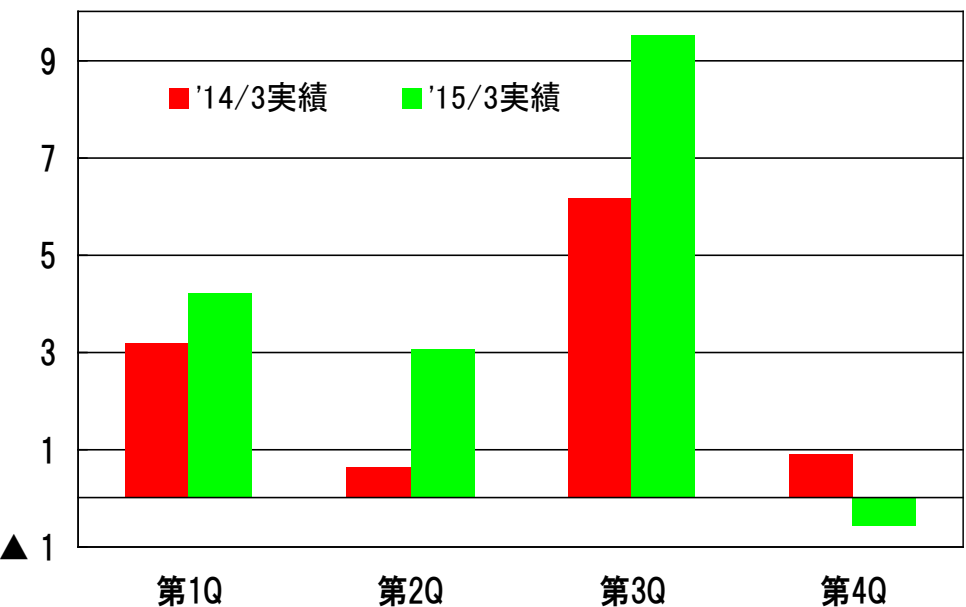
<主要魚種別 売上高(前年比)>

(単位:億円)

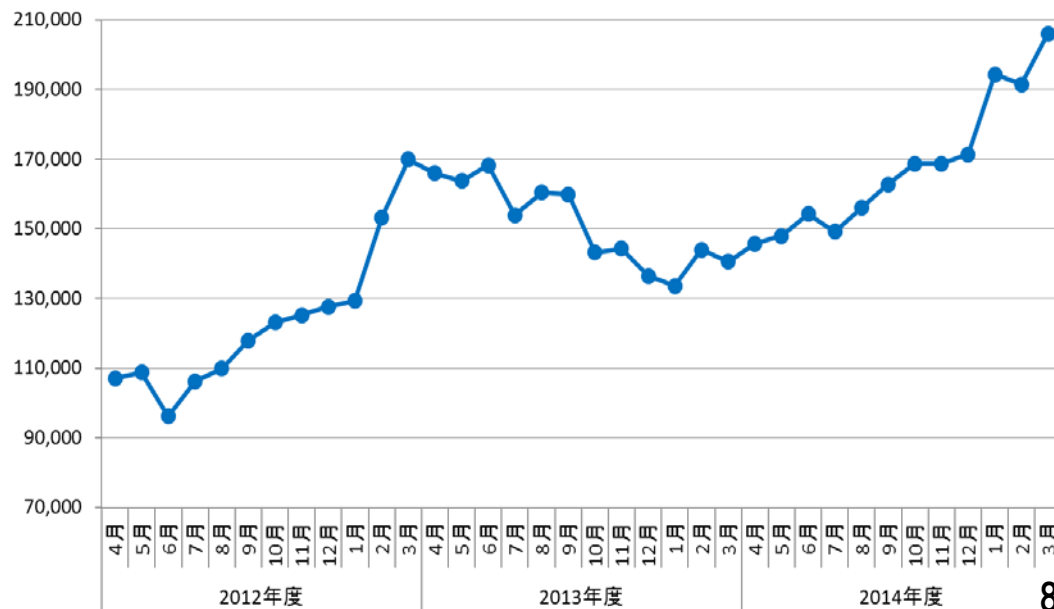


<営業利益(四半期別)>

(単位:億円)



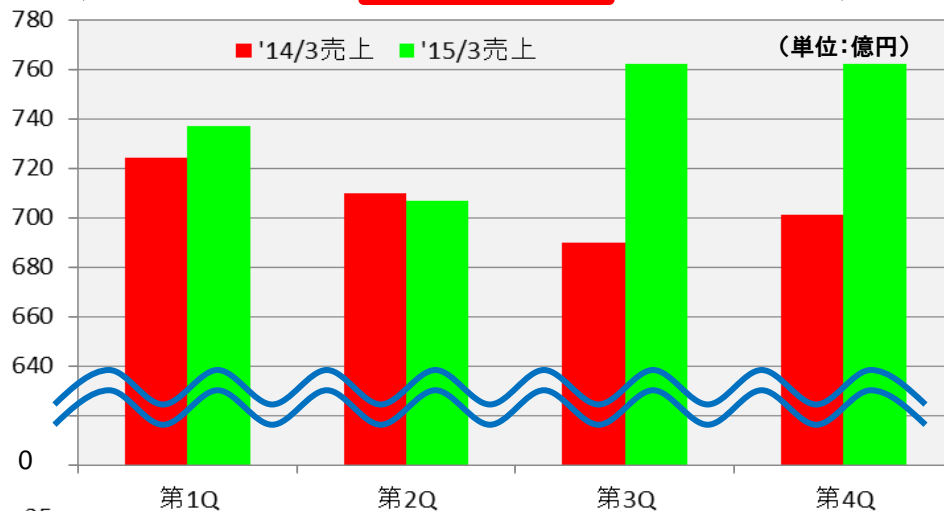
<魚粉価格動向(財務省貿易統計より算出)>



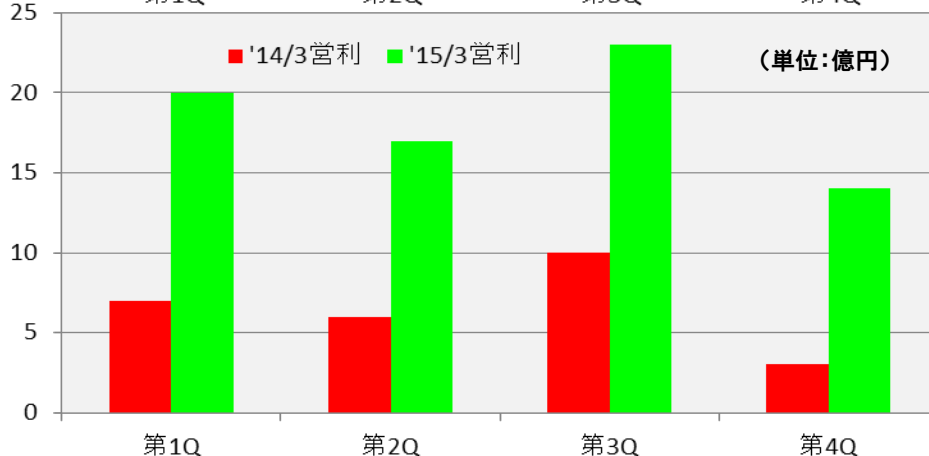
◆不採算事業撤退に加え、北米・ヨーロッパが好調に推移し、利益は伸長

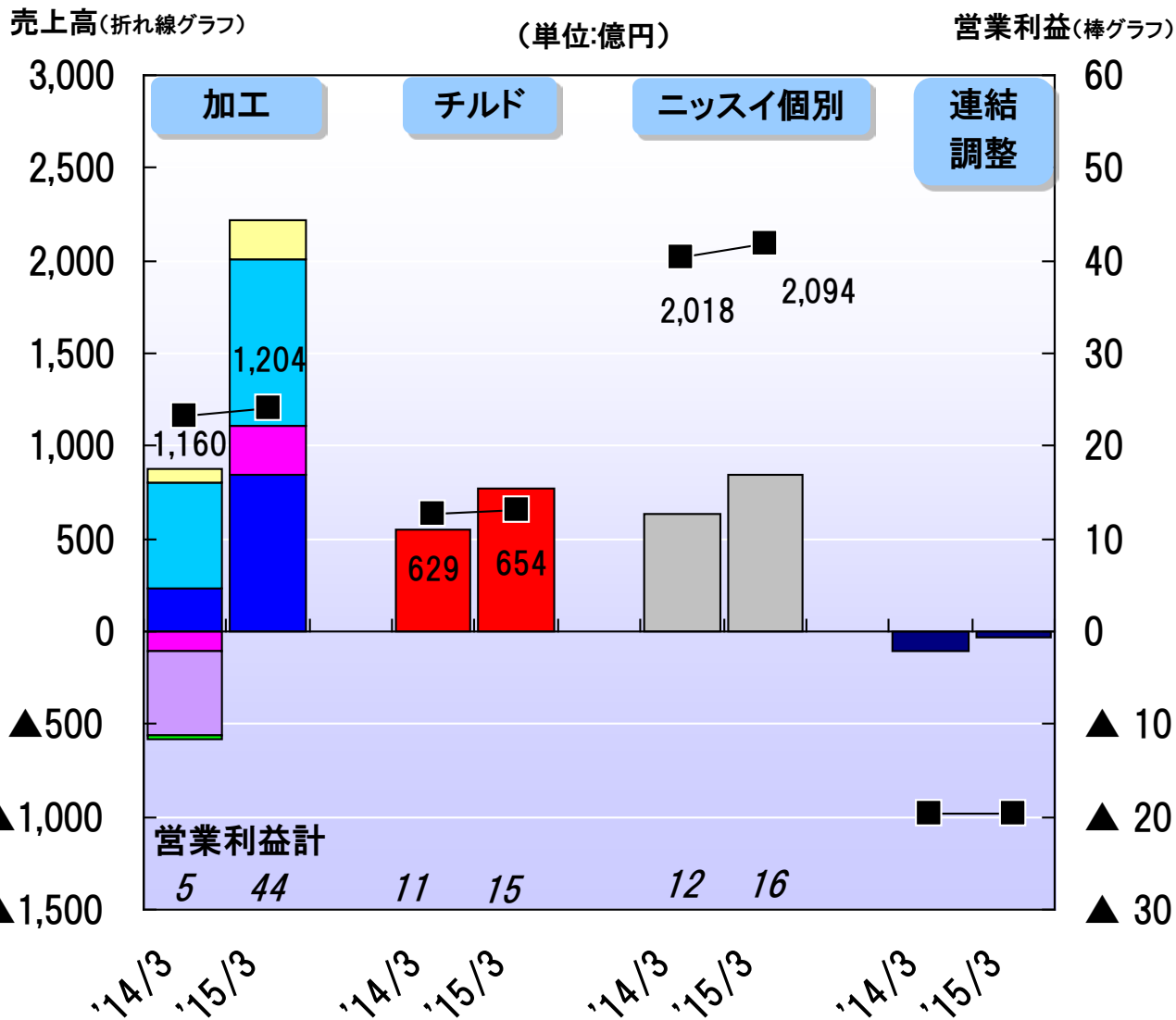
(単位: 億円)	2015年3月期 実績	2014年3月期 実績	対前年比 増減額/率		2015年3月期 公表値	公表値に 対する進捗率
売上高	2,969	2,826	142	105.0%	2,853	104.1%
営業利益	75	27	48	275.0%	64	118.7%
営業利益率	2.6%	1.0%	-	-	2.2%	-

売上高



営業利益





主な増減要因

【加工】

- ・ドイツ、中国の不採算事業からの撤退・縮小が収支好転に寄与
- ・北米
工場集約と重点アイテムへの傾注などコスト削減への取り組み
大手レストランチェーン向けの販売数量増加と価格改定効果

・ヨーロッパ

チルド製品の販売伸長、生産性の向上

【チルド】

- ・チルド弁当、サラダ等の販売伸長
- ・生産工程の見直しによる生産性の向上

【ニッスイ個別】

- ・太ちくわ、「妖怪ウォッチ」等、ねり製品・魚肉ソーセージなどが好調

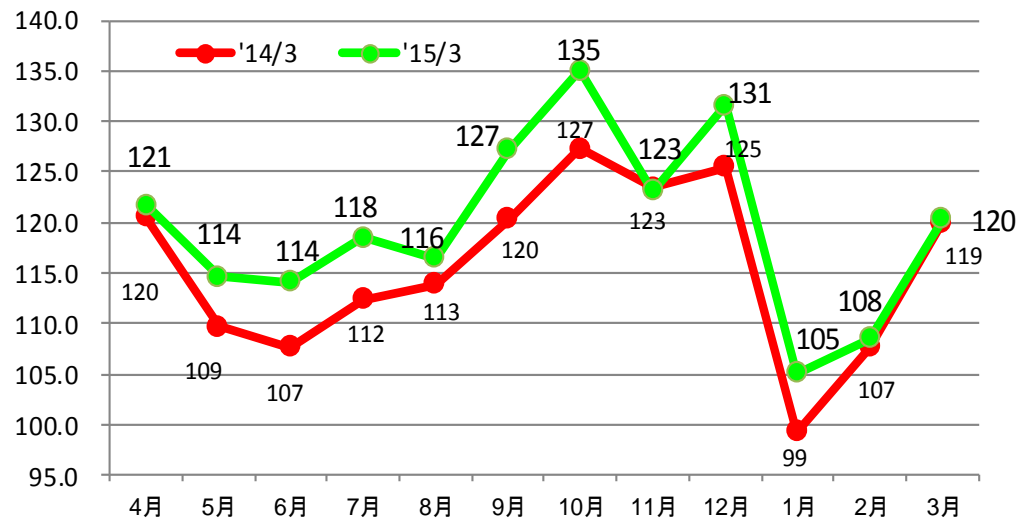
※加工、チルドのグラフは連結子会社の合計を記載
 ※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値
 ※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる

食品事業 ニッスイ個別(前年比)



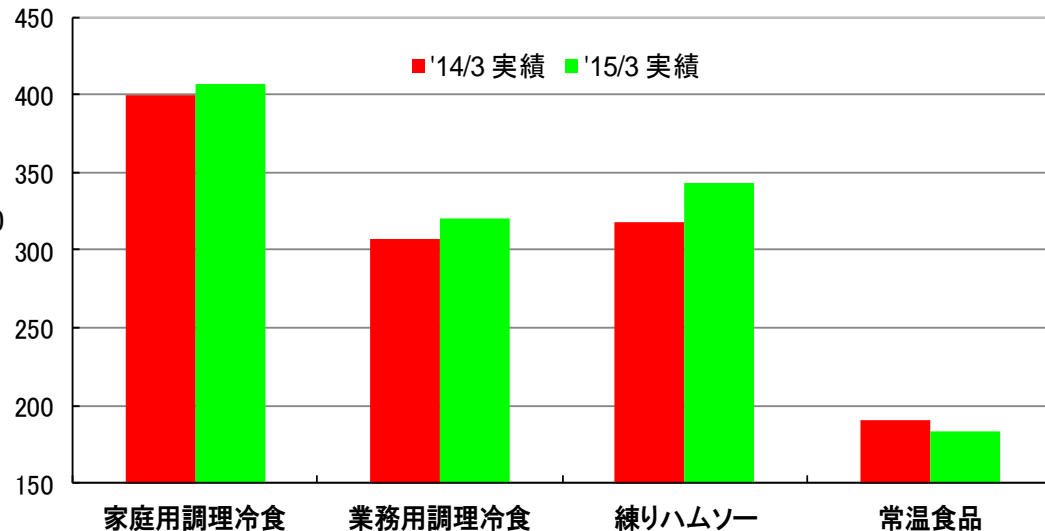
<売上高(月別)>

(単位:億円)



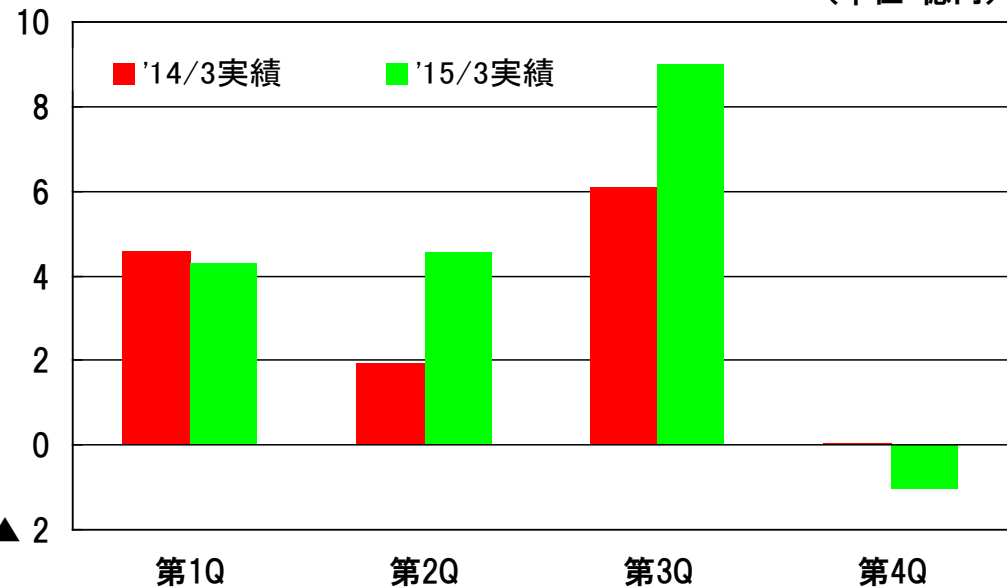
<カテゴリー別 売上高(前年比)>

(単位:億円)

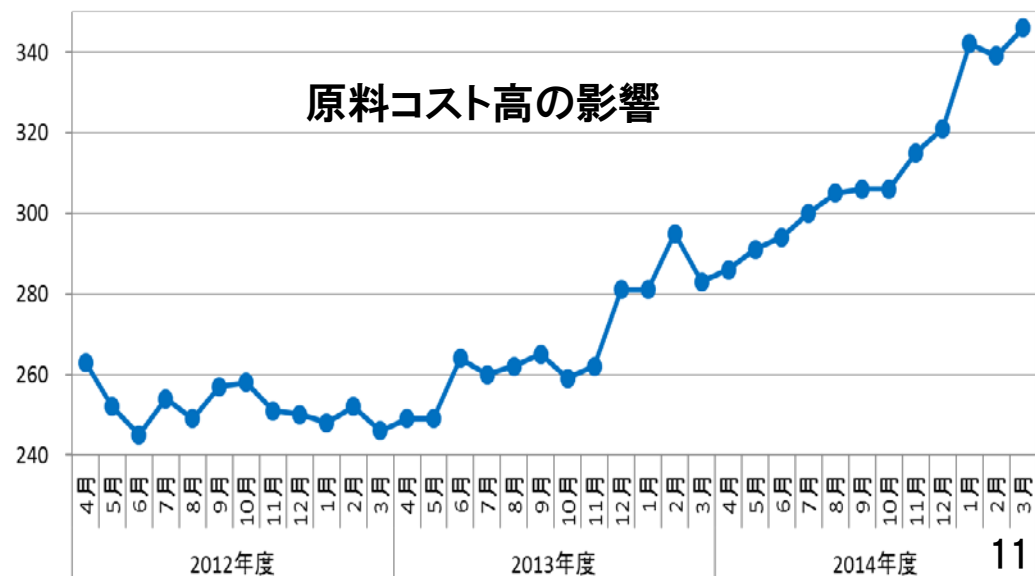


<営業利益(四半期別)>

(単位:億円)



<冷凍すりみ輸入価格推移 (財務省貿易統計より算出)>



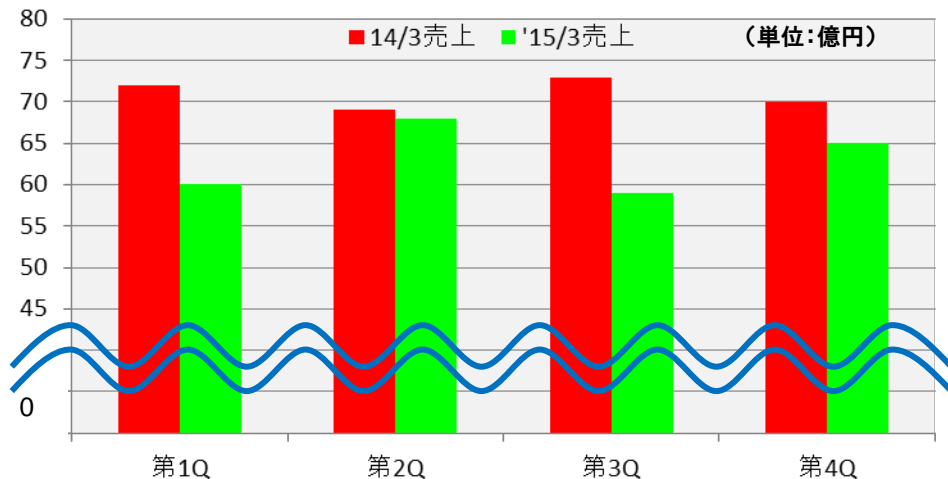
◆2年に1度の薬価改定および後発品使用促進策の強化等の影響により、減収・減益

(単位:億円)	2015年3月期 実績	2014年3月期 実績	対前年比 増減額/率		2015年3月期 公表値	公表値に 対する進捗率
売上高	253	285	▲ 32	88.6%	262	96.7%
営業利益	45	75	▲ 30	60.3%	43	106.0%
営業利益率	18.0%	26.5%	-	-	16.4%	-

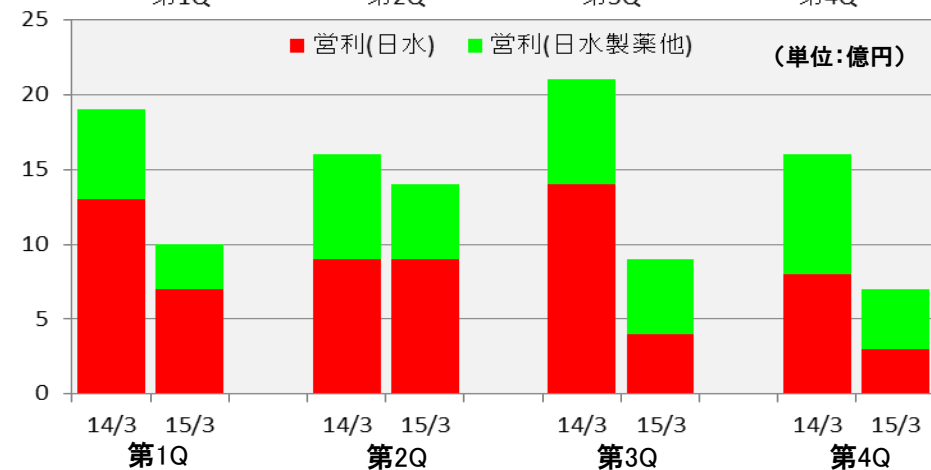
【決算総括】

- ・医薬原料
薬価改定による粗利の減少、および後発品使用促進策などによる販売数量の減少
- ・機能性食品
通販事業拡大を目指して広告宣伝費を投入するも、販売数量が伸び悩む
- ・(グループ)
臨床診断薬、医薬品での販売低迷

売上高



営業利益

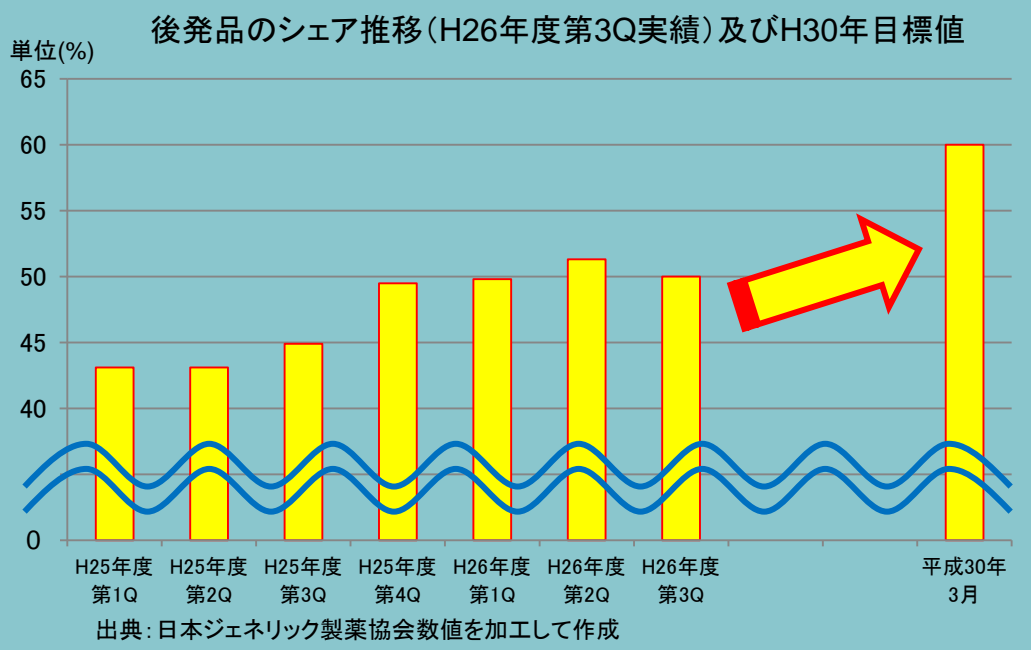


<薬価改定の影響>
 2年に1度の薬価基準改定に伴い、医薬品原料販売単価を引き下げ
 2015年3月期決算への影響⇒営業利益減少額 対前年比 ▲約3億円

<後発品使用促進策の強化等の影響>
 後発品使用促進策の強化等を背景に、
 先発品の販売が苦戦
 2015年3月期決算への影響
 ⇒営業利益減少額 対前年比 ▲約12億円

↓

過去の薬価改定では薬価引下げによる減少額を販売拡大でカバーしてきたが、今回は後発品が大きく拡大し、販売数量減少



<機能性食品>
 ・通販事業拡大を狙った広告宣伝費の投入するも、販売数量が伸び悩む
 ▲約7億円 (広告宣伝費 ▲4億円、販売数量 ▲3億円)

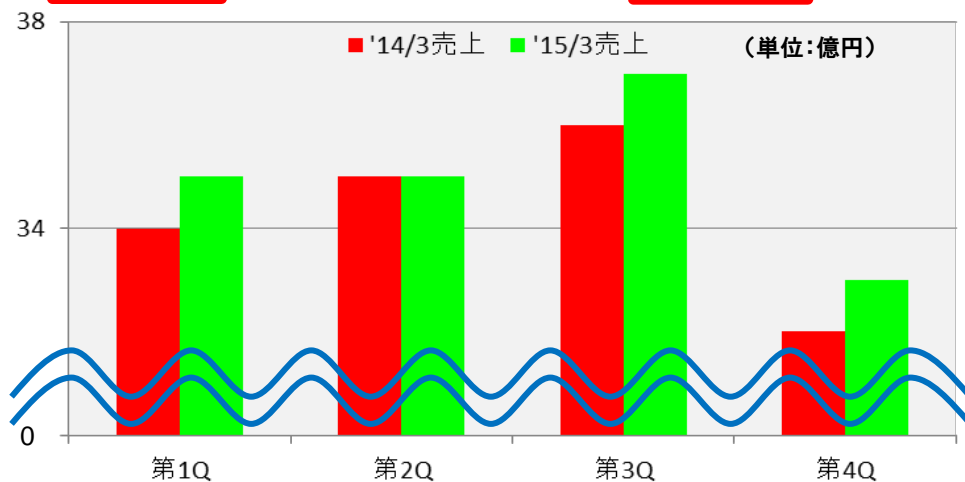
◆前年比で増収・増益

(単位: 億円)	2015年3月期 実績	2014年3月期 実績	対前年比 増減額/率		2015年3月期 公表値	公表値に 対する進捗率
売上高	142	138	3	102.5%	144	98.7%
営業利益	16	15	1	107.4%	17	98.3%
営業利益率	11.8%	11.2%	-	-	11.8%	-

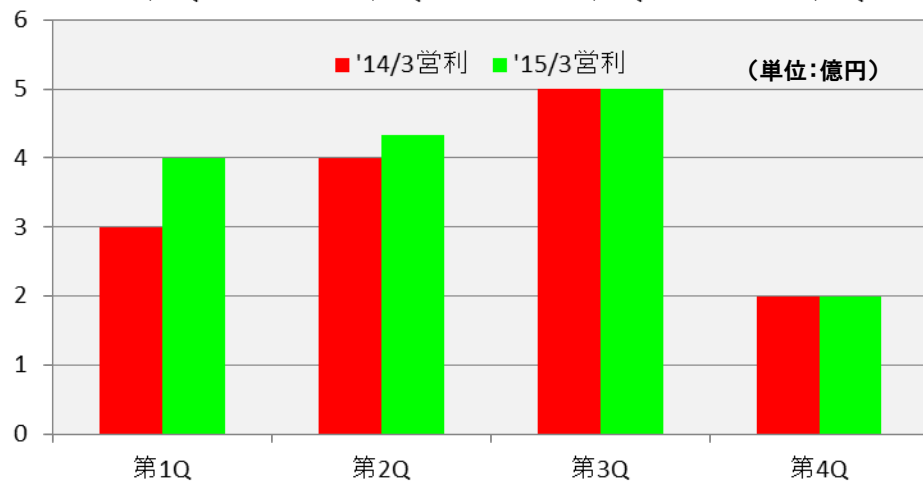
【決算総括】

- ・電力料や運送費のコストが増加するも、保管料収入増加等により収支安定

売上高



営業利益



連結損益計算書(前年比)

(単位:億円)

	2015年3月期 実績	売上高比 (%)	2014年3月期 実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	6,384		6,042		341	5.7
売上総利益	1,327	20.8	1,240	20.5	87	7.0
販売費・一般管理費	1,146		1,100		45	
営業利益	181	2.8	139	2.3	41	30.0
営業外収益	74		37		37	
営業外費用	41		53		▲11	
経常利益	213	3.4	123	2.0	90	73.1
特別利益	31		21		9	
特別損失	33		34		▲0	
税金等調整前当期純利益	211	3.3	110	1.8	100	90.9
法人税等	47		56		▲9	
法人税等調整額	48		3		44	
少数株主損益調整前当期純利益	116		50		66	
少数株主利益	13		12		0	
当期純利益	102	1.6	37	0.6	65	173.7

主な増減要因

【営業外収益・費用】

有価証券売却益 約11億円増加
 持分法による
 投資利益 約27億円増加 等

主な内訳

【特別利益・損失】

2015年3月期(当期)

- 関係会社株式売却益 約26億円
- 関係会社株式売却損 約13億円
- 急激な環境変化による養殖
まぐろの斃死による損失
約7億円

2014年3月期(前期)

- 固定資産売却益 約14億円
- 減損損失戻入益 約4億円
- 関係会社株式売却損 約8億円
- 関係会社出資金売却損 約7億円
- 特別退職金 約5億円

連結貸借対照表(前期末比)



流動資産 2,317 (+220)	流動負債 2,123 (+160)
固定資産 2,275 (+56)	固定負債 1,427 (▲89)
	純資産 1,042 (+204)
総資産 4,592 (+276)	うち自己資本 852 (+189) <small>自己資本比率 18.6%</small>

(単位:億円)

主な増減要因					
資産	+276	流動資産	+220	現金及び預金	+36
				商品及び製品	+67
				仕掛品	+6
				原材料及び貯蔵品	+39
				その他	+64
固定資産	+56	有形固定資産	+42	無形固定資産	▲15
		投資その他の資産	+29		
負債	+71	流動負債	+160	支払手形及び買掛金	+1
				短期借入金	+120
				事業整理損失引当金	▲20
				その他	+49
固定負債	▲89	長期借入金	▲138	繰延税金負債	+21
		退職給付に係る負債	+24		
純資産	+204	利益剰余金	+84	その他有価証券評価差額金	+68
		為替換算調整勘定	+48	少数株主持分	+15

自己資本比率 '14/3 15.4% → '15/3 18.6%

()内の数字は前期末比増減

連結キャッシュフロー(前年比)



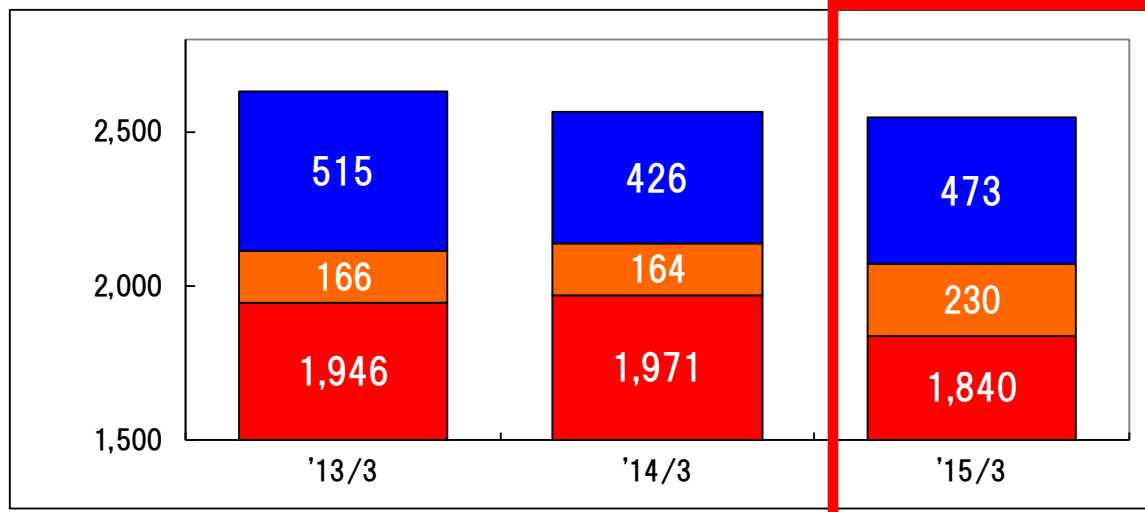
(単位: 億円)

	2015年3月期 実績	2014年3月期 実績	増減
・税金等調整前当期純利益	211	110	100
・減価償却費 (のれん償却含む)	172	184	▲ 12
・運転資本	▲ 64	▲ 93	28
・法人税等の支払額	▲ 53	▲ 54	0
・その他	▲ 37	33	▲ 70
営業活動によるCF	228	181	47
・設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 168	▲ 143	▲ 25
・その他	47	26	20
投資活動によるCF	▲ 121	▲ 116	▲ 4
・短期借入金の増減額	18	▲ 36	55
・長期借入金の増減額	▲ 87	▲ 72	▲ 15
・その他	▲ 9	▲ 9	0
財務活動によるCF	▲ 78	▲ 118	40

連結借入金・純金利負担

(単位: 億円)

- 海外関係会社
- 国内関係会社
- ニッサイ個別



前期末
比増減

+47

+65

▲131

借入金合計	2,626	2,561	2,543	▲18
短期借入金	1,307	1,278	1,399	+120
長期借入金	1,319	1,282	1,143	▲138
短期借入金平均利率	0.9%	0.7%	0.6%	▲0.1%
長期借入金平均利率	1.4%	1.4%	1.3%	▲0.1%
純金利負担	18.1	16.9	16.2	
対営業利益純金利負担率	31%	12%	9%	
支払利息	37.6	32.7	30.3	
受取利息	9.3	4.7	3.9	
受取配当金	10.1	11.0	10.1	
為替レート(US\$1)	@86.58(12月末)	@105.39(12月末)	@120.55(12月末)	

※為替レート換算による
影響額

前期末比 +58億円

個別損益計算書(前年比)



(単位:億円)

	2015年3月期 実績	売上高比 (%)	2014年3月期 実績	売上高比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	3,506		3,339		167	5.0
売上総利益	661	18.9	662	19.8	▲1	▲0.2
販売費・一般管理費	632		634		▲2	
営業利益	28	0.8	27	0.8	0	2.4
営業外収益	78		53		25	
営業外費用	48		40		7	
経常利益	58	1.7	40	1.2	18	44.6
特別利益	15		16		▲0	
特別損失	6		21		▲14	
税引前当期純利益	67	1.9	36	1.1	31	87.2
法人税等	1		7		▲5	
法人税等調整額	24		6		17	
当期純利益	41	1.2	21	0.7	19	91.0

主な増減要因

【販売費・一般管理費】

販売費増加 約9億円
 管理費減少 約15億円
 (退職給付費用減少)

【営業外収益・費用】

受取配当金増加 約21億円

主な内訳

【特別利益・損失】

2015年3月期(当期)
 - 関係会社株式売却益 約14億円

2014年3月期(前期)
 - 固定資産売却益 約14億円
 - 投資有価証券売却益 約2億円
 - 関係会社出資金売却損 約5億円
 - 特別退職金 約4億円

来期の業績予想

<連結>

	2015年3月期 実績	2016年3月期 計画	増減
売上高	6,384	6,360	▲24
営業利益	181	170	▲11
経常利益	213	185	▲28
当期純利益	102	105	2

※「当期純利益」は、「親会社株主に帰属する当期純利益」の額を表示。

主要在外会社の 為替換算レート	2015年3月期 実績	2016年3月期 計画	(参考)2014年3月期 実績
米ドル	120.55円	120.00円	105.39円
ユーロ	146.54円	146.00円	145.05円
デンマーククローネ	19.68円	20.00円	19.44円

- (水産事業)**
 魚価調整を見込み減収
 ・南米:魚価の軟調傾向から減益
 ・アジア:回収懸念債権の影響がなくなり、収支好転
 ・ニッスイ個別:魚価調整あるも、在庫マネジメントを強化するとともに、食材化を推進し利益を確保
- (食品事業)**
 原材料コストアップを見込み減益
 ・北米:シェア回復のため広告宣伝費を投下
 ・欧州:原材料等コストアップの影響大
 ・ニッスイ個別:円安によるコストアップを価格調整や生産性向上、新カテゴリー商品導入などによりカバー
- (ファインケミカル事業)**
 後発品の影響を見込みほぼ前年並み
 ・医薬品原料:海外展開の促進
 ・機能性食品:広告宣伝の見直しによる販売拡大
 ・機能性表示制度を活用した商品展開

来期の業績予想



	2016年3月期 計画	2015年3月期 実績	対2015年3月期 実績比増減		2014年3月期 実績	対2014年3月期 実績比増減	
			(億円)	(%)		(億円)	(%)
売上高	6,360	6,384	▲ 24	99.6%	6,042	317	105.3%
水産事業	2,726	2,848	▲ 122	95.7%	2,538	187	107.4%
食品事業	2,995	2,969	25	100.9%	2,826	168	105.9%
ファインケミカル事業	280	253	26	110.6%	285	▲ 5	98.0%
物流事業	152	142	9	106.9%	138	13	109.6%
その他	207	170	36	121.4%	252	▲ 45	82.1%
営業利益	170	181	▲ 11	93.9%	139	30	122.0%
水産事業	60	62	▲ 2	95.3%	50	9	119.4%
食品事業	68	75	▲ 7	89.5%	27	40	246.3%
ファインケミカル事業	44	45	▲ 1	96.6%	75	▲ 31	58.2%
物流事業	17	16	0	101.7%	15	1	109.2%
その他	5	8	▲ 3	58.7%	12	▲ 7	41.1%
全社経費	▲ 24	▲ 28	4	83.9%	▲ 41	17	57.3%
経常利益	185	213	▲ 28	86.5%	123	61	149.7%
当期純利益	105	102	2	102.2%	37	67	279.6%

※「当期純利益」は、「親会社株主に帰属する当期純利益」の額を表示。

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因の変化により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2015年5月15日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR室広報IR課

03-6206-7044

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

